

〔安定した生産技術の開発〕
パッションフルーツの生産安定技術の開発
～仕立て方による収量性の検討～

原島浩一

(小笠原亜熱帯農業センター)

【目的】

これまで露地栽培におけるパッションフルーツの生産量増大のためにV字仕立て栽培を試行してきた。ここでは、V字仕立ての角度(支線および着果枝を立ち上げる角度)を変えた場合の収量性などを比較検討する。

【試験方法】

供試品種：台農1号 処理区(図1)：平棚区(対照区)，V字45区(地面に対し、支線を45°に立ち上げた区)，V字75区(地面に対し支線を75°に立ち上げた区) 区制：1区1株2反復 定植：平成13年10月23日 肥培管理：慣行法 調査方法：収穫量，収穫果実数，1果重，糖度(Brix%)，酸度(0.1N水酸化ナトリウム滴定後クエン酸換算)，着色程度(1：緑白色～5：濃紫色)

【成果の概要】

1) 収穫時期は5月27日から7月30日だった。収量はV字75区が平棚区の約1.6倍，V字45区が約1.5倍だった(図2)。果実数はV字75区が平棚区の約1.6倍，V字45区は約1.4倍であった(図3)。

2) 各処理区間で糖度と酸度に大きな差はなく，果実の糖度および酸度に対する仕立て方法の影響はみられなかった(図4，図5)。

3) V字区では，果重のばらつきが平棚区よりも小さかった(図6)。V字仕立てでは枝葉の量・配置の管理が行いやすく不要な枝が除去され，果実に養水分が供給されたことと，光が均一にあたるようになったことによると考えられた。

4) 両V字区では着色が進んだものが多かった(図7)。果実に光が均一にあたったためと考えられた。

5) 以上から，V字仕立て栽培を行うことで平棚栽培より収量性が向上し，特に，V字75区は，同一面積内での茎葉繁茂面積が多く，いっそう収量性が優れた。また，V字75区は野菜栽培で用いられるアーチ型支柱が利用でき，設置作業が大幅に簡略化できた。

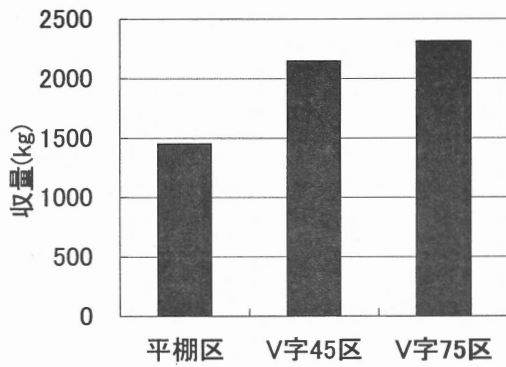
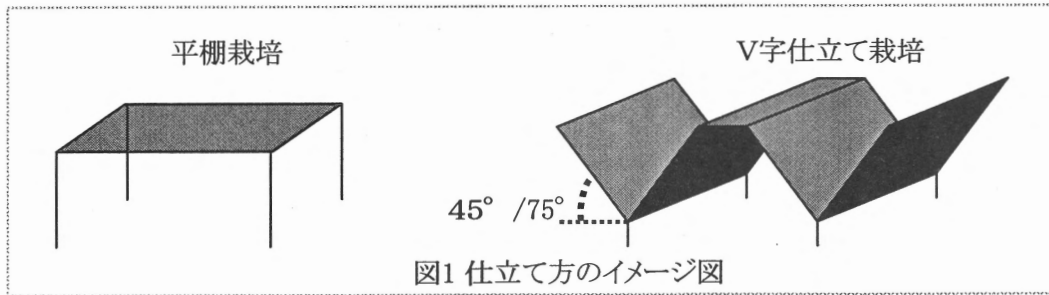


図2 10aあたり収量.

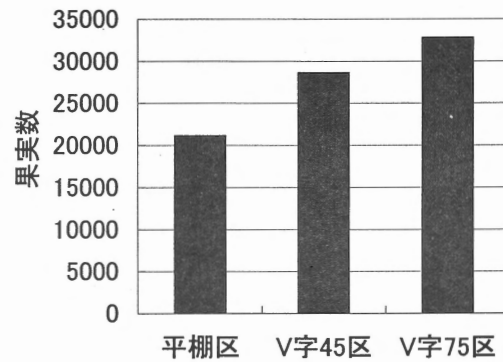


図3 10aあたり収穫果数.

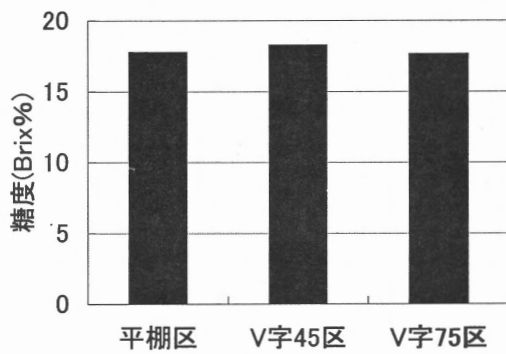


図4 収穫果の糖度.

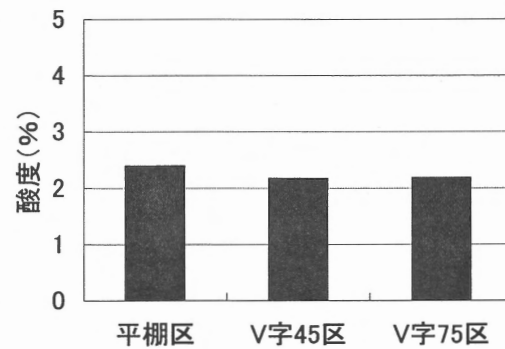


図5 収穫果の酸度.

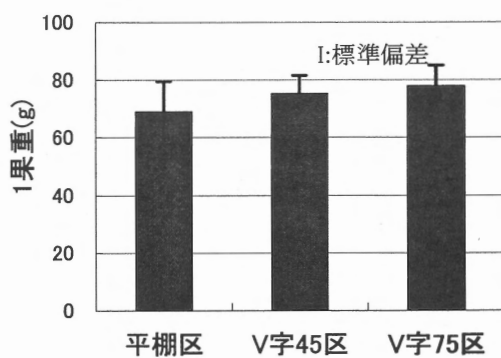
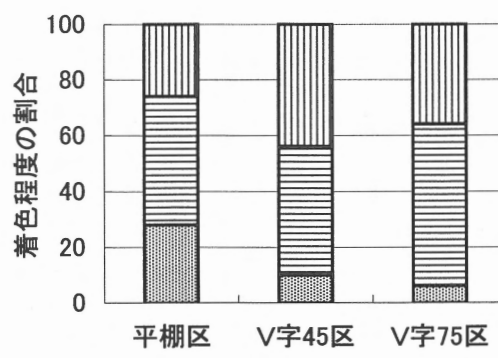


図6 収穫果の1果重.



■着色程度3 □着色程度4 ▨着色程度5
図7 収穫果の着色程度内訳